

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成27年1月22日(2015.1.22)

【公表番号】特表2014-507175(P2014-507175A)

【公表日】平成26年3月27日(2014.3.27)

【年通号数】公開・登録公報2014-016

【出願番号】特願2013-542601(P2013-542601)

【国際特許分類】

A 6 1 B 18/18 (2006.01)

A 6 1 B 18/12 (2006.01)

H 0 5 H 1/24 (2006.01)

H 0 5 H 1/46 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/36 3 4 0

A 6 1 B 17/39 3 1 0

H 0 5 H 1/24

H 0 5 H 1/46 R

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月28日(2014.11.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 2】

最後に、この装置は、外部ソース1018からのパワー(たとえば電源電力)を受けこれをこの装置内の構成要素のためのDC電源信号V1～V6に変換する電源部1017を含む。よって、ユーザインターフェイスはパワー信号V<sub>1</sub>を受け、マイクロプロセッサ110はパワー信号V<sub>2</sub>を受け、RF列102はパワー信号V<sub>3</sub>を受け、マイクロ波列はパワー信号V<sub>4</sub>を受け、信号調節汎用インターフェイス回路108はパワー信号V<sub>5</sub>を受け、監視部1015はパワー信号V<sub>6</sub>を受ける。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 0】

同様に、可変インダクタ204は、キャパシタ列201の遠位端にある変圧器175の二次コイルに対して並列(シャント)接続される。この例において、可変インダクタ204は、独立してこのチャネルに切換えるまたはこのチャネルから切換えることができる複数(この場合は4つ)のインダクタ206を含む。各インダクタ206は関連するバイパススイッチ208を有し、これにより、対応する巻線206の始点および終点を短絡させるまたはバイパスすることができる。バイパススイッチ208は、コントローラ106からのそれぞれの制御信号C5～C8によって機能する。インダクタ206は異なるインダクタンスを有してもよい。たとえば、システムを整合させることができる可能な負荷インピーダンスにできる限り大きな変動を与えるために、すなわちスミスチャートをできる限りカバーするために、バイナリシーケンスで配置された1×、2×、4×および8×ベースインダクタンスとして配置してもよい。